

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800185		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム装束門・みどりの家		
所在地	山口県岩国市装束町4丁目10-13		
自己評価作成日	平成25年11月21日	評価結果市町受理日	平成26年7月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が入居者様が入居されたその日から一緒に暮らす家族としてご支援させて頂くという共通の思でケアをさせて頂いています。ご家族同士の交流も広がっており、家族会やご面会を通して今後の事も一緒に考えていきたいの思いを話して下さいました。運営推進会議も多職種の方がホームの運営の為にご尽力を頂いています。入居者様は、ご家族と自宅に帰られたり旅行に出かけられる方電話でお話をされるかたもいっしょにお互い健康を気遣うお言葉が聞こえます。主治医や薬局の方は入居者の状態をととてもよく把握して下さり、急な住診や夜間の問い合わせにも快く丁寧に指示下さっています。本社の協力を得て畑で育つ季節の野菜がリビングから見え近所の方からも多くの季節の野菜が届きます。入居者様は自分の思いを自由に話せる環境にあり入居者様の笑顔は職員の方々の笑顔だと思っています。職員が入居者様と楽しそうに過ごしている事が何より嬉しいことです

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ランチョンマットやコースター、歌本など、いろいろな物を利用者が手作りして楽しめたり、ゲームや日記を書く支援などいろいろ工夫されて、利用者一人ひとりがその人らしく、生き活きと暮らしていけるように全職員でアイデアを出し合われ、検討を重ねてられて支援しておられます。行事に参加されている利用者の様子を詳しく記録され、写真に撮って、手紙に添えて毎月家族に送付しておられ、家族も喜ばれています。利用者と家族、職員と一緒にミカン狩りやいちご狩りにサロンバスで行かれ、バスの中で家族会を開かれて、運営推進会議の報告をされたり、家族の思いなど聞かれたり、交流を深める場にされています。運営推進会議に小学校の校長先生が参加され、小学校で認知症サポーター養成講座を開催されるなど、地域へ認知症の理解を深める取り組みをされている他、小学生とも日常的に交流されたり、利用者が近くの福祉委員宅である集まりに出かけられたり、地域の人が事業所の行事に参加されるなど、交流を深めるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度の事業所理念の小項目の中に地域へ認知症の理解を広める活動を行なうとしており、認知症サポーター研修や夏祭り、バザー等の企画を通し地域の方に認知症の理解を広める活動を行なった。	理念について全職員で話し合い、事業所理念に新たに「地域へ認知症の理解を広める活動を行う」を加え、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事であるとんど祭り、盆踊り、神楽舞、に入居者と参加し町内一斉清掃は職員が参加した。天気の良い日には買い物や散歩の他福祉委員様宅へ訪問や月一回の茶話会に地域の人を交えて手作りのお菓子を食べたりレクを行なった	自治会に加入し、町内清掃に参加している。利用者は散歩や買い物、近くの福祉委員宅にある「れんげの家」へ出かけて交流している他、近所から季節の野菜が届くなど地域の人と交流がある。事業所で行う茶話会やみどり祭り、夏祭りに地域の方の参加を呼びかけ、手作りのお菓子やゲーム、バザー、食事会などで、地域の人や小学生と交流する他、小学校で認知症サポーター養成講座を行うなど、地域への事業所の理解につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生徒の交流会を年2回以上行っておりその子ども達へ先生と話し合い認知症サポーター研修を行なう。茶話会の方と食事会やバザー夏祭りで地域の人との交流の機会を持った		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員と自己評価を行なったことで入居者が最期までその人らしく暮らしていけるよう職員が知識と技術を高め介護に対する想いを実践していく意識の向上になっている	管理者が全体ミーティングで自己評価及び外部評価の意義や内容について説明し、項目を抜き出して資料を作り、職員に聞き取りをしたものをもとに、フロアリーダーと話し合い作成して、出来上がった自己評価を職員に確認してもらっている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、地域との協力体制の構築に向けて話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内で入居者の日常生活やヒヤリハット研修その他の取り組みを報告し、会議の席でたくさんの意見を頂いている。皆様がホームの状況をよく把握して下さっており多くの協力も頂いている	2ヶ月に1回開催し、小学校校長、警察官、市議員など様々な立場の人が参加して、活発に意見交換している。小学校6年生を対象に認知症サポーター養成講座を実施している他、事業所のみどり祭りの地域の人への呼びかけにメンバーの協力を得ている。年2回の家族会で運営推進会議の内容の報告をしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者へは介護保険の事で相談に乗って頂いたり、運営推進会議の出席の他認知症サポーター研修の相談、各種研修の問い合わせの他地域から上がって来た意見を伝えるようにしている	市介護保険課とは、相談をして助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、認知症サポーター養成講座開催の相談や情報交換するなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から玄関のカギは日中はしていない。身体拘束・虐待については「ケア向上委員会」を通して毎月事例検討や施設従事者の為のチェック、身体拘束の現状等の研修を行なっている	毎月の全体ミーティングでケア向上委員会を中心に、全職員を対象にした研修を実施し、施設事業者のための自己チェックシートの活用や事例検討をして理解を深め、職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7と同じく毎月研修を行なっている他、新人研修、ケア力アップ研修を通して虐待に関わる基礎知識として未然防止、早期発見、虐待に気づいた時の対応、又虐待の原因についても伝え考える機会をもっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については折りにふれ職員に伝えるようにしている。今のところ新たな活用支援者はいない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくり時間をかけて説明を行ない不明点については丁寧に説明するように心がけた。新契約は、平成23年12月よりない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いている。ご家族からの電話や面会時に日ごろの様子を伝え家族からも相談や意見が言いやすい雰囲気作りを心がけ、意見や要望があった時は本社に報告するとともに早急に対応し解決に向けた取り組みを行なうようにしている	相談や苦情の受付体制、処理手続きを定め、周知している。毎月、利用者の日頃の様子を担当職員が写真入りで手書きしたホーム便りを家族に送り、家族の理解を深める取り組みをしている。年2回、サロンバスを利用して、利用者と家族、職員が一緒にいちご狩りやミカン狩りに行き、バスの中で家族会をひらき、運営推進会議の報告をしたり、家族間で話し合ったり、家族と職員の交流の機会としているなど、家族の意見や要望が出しやすいように取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はその都度聞き話しあいながら良い事はどんどん取り入れ、検討課題も前向きに一緒に考えていくようにしている他、年2回職員の目標や意見等を聴く時間を設けている。	管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の意見から、利用者と朝の話し合いの時間や日記を書く時間を設けるなど、利用者が活き活きと暮らしていくための取り組みに反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームの目標の他職員個人の目標を掲げ達成度も年2回効果表を元に話しあっている。本社へも職員の努力や実績を報告している。職員が自らやりがいを持ってケアが出来るよう職員と一緒にホームの環境作りに取り組んでいる		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育にはチューター制度を取り入れている。職員の年齢、介護経験、考え方、性格等を把握し研修への参加やOJTの実施資格の取得をすすめている	外部研修の情報を伝え、希望する職員には、法人が認めた研修は勤務の一環とし、それ以外は休みを取って参加している。受講後は、復命報告書を作成し、全職員が報告書に目を通して通している。本社採用の新人は「自己振り返りシート」や論文の提出など確立されたものを受け、パート職員には本社の職員が来てオリエンテーションを行い、日常の業務の中で働きながら、担当職員に技術や知識を学んでいる。内部研修は職員に研修したい内容についてアンケートを取って、薬剤師などの外部講師を招いたり、管理者が講師になって行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部で行われる研修会に積極的に参加し同業者と交流の機会を持っている。本社では管理者の意見交換、事例検討会、又趣味講座やさんさんかい参加の呼びかけを行なっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までの本人の暮らしを本人、家族、ケアマネージャー他から聞くと同時に本人の日頃の様子や会話の中から見えてきた事を職員間で話し合いプランに入れていくことで本人の暮らしの中に安心が確保できるよう心掛けている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	16項目と同じように行う他、家族の思いに耳を傾け本人の暮らしを家族と共に支えて行けるよう関係づくりに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームへ入居の際には今まで習慣としていた習い事の継続や行きつけのお店での買い物や理美容の利用をしてもらったり、家族と一緒に自宅に帰られるよう家族への支援を行なった		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常日頃から入居者との関係は介護する側される側では無く入居者を人生の先輩として敬い共に暮らす人としての関わりを大切にできるよう伝えておりその関係を築いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者を家族と共に支える事が必要であり家族会や日ごろの交流を通して良い関係が出来てきている。家族からホームで暮らす親や職員が家族なら私達家族も家族として入居者全員を支えていきたいと言う声が上がった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と交流のある知人や親せきとの交流を大切にし、認知症の進行している入居者へは職員も一緒に会話に入り今後も良い関係が継続出来るよう支援している	馴染みの店での買い物や自宅へ帰って畑の仕事や草取りをしている他、家族の協力を得て、法事やお通夜、お寺、結婚式に行くなどの支援をしている。事業所に僧侶を呼び、法事をするなど馴染みの関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一堂に集まって話しが出来る時間を一日2回は持っており全員が思いを話せる雰囲気作りに努めている。言葉を話せない入居者に他の入居者から思いやりの言葉や仕草が伺える		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了者は他の施設で夫婦で暮らし始めたり自宅に戻って家族と生活を始めた方もあるので特別な支援を行っていない。平成23年11月以降は終了者はいない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は職員間だけでなくご家族とも共有し可能な限り叶えるようにしている(入居者の冠婚葬祭の出席、馴染みのお店での買い物、自宅に帰って畑仕事や庭の草取り等家族と過ごす時間を持つなど)	日頃の関わりの中での利用者の表情や言葉などを生活日誌や伝達ノートに記録する他、朝の話し合いの時間やおやつ時間に利用者の希望を聞いて、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から話しを聴いたり電話や面会時にご家族からお話を聞き、情報の共有に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の流れの中で一人ひとりの過ごし方を大切に考え好きな事ややってみたくい事、本人の得意とする事が生き活きと続けていく事が出来るよう現状の把握と支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活記録には介護計画に基づいた記録がなされておりモニタリングは本人、家族に分かりやすい文章と説明を行なっている。本人、家族から頂いた意見やアイデアは出来るだけ計画の反映させるようにしている	利用者や家族の意向を参考にして話し合い、介護計画を作成している。個々の利用者の短期目標を一覧表にして、確認しながら日々の支援を生活記録に記録してモニタリングを実施し、6か月ごとのに見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は介護計画以外の気づきも記入しフロア会議等で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人からの言葉や家族、地域の方から頂いた情報を日ごろの生活の中に取り入れ活かせるように努めている。(お菓子作り、干し柿、イベント、子どもたちとの交流等)		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの思いを把握し、地域住民の訪問や小学生との交流、地域行事の参加やホーム内行事の呼びかけを行なう中で日々の暮らしを楽しめるよう支援している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病気の症状は電話や手紙、面会時等に伝えるようにしている。いつでもどんな事でも相談に乗ってもらえ適切な指示も頂いている。本人、家族の希望は必要時伝えるようにしている	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診がある他、24時間いつでも医師に相談ができ、適切な医療を受けられるように支援している。往診ファイルに利用者の様子、医師の指示、処方を記録し、情報を共有している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間分のバイタルや体調について気づきを書きそれを基に看護師と相談し、適切な受診や看護を受ける事が出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は入院に至った情報を即日、口答又は早い段階で情報提供書を渡し入院中も地域連携室と連絡を取り退院前面談及び相談を行なって退院後にスムーズな支援が出来るように努めている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて本人からは日常会話から意向を聞き家族に伝えご家族からも意向を聴いている今後、看取りの段階になった時は関係者及び家族と話し合いながら入居者の支援を行なっていきたい	看取りの指針があり、契約時に家族に説明している。重度化した場合は、家族と相談をして意向を確認している。医師と相談しながら看取りについて全体ミーティングで話し合い、共通理解を図っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的に救急救命講習を職員全員が受けている。又急変時の対応の研修(発熱時、転倒時、窒息時、救急車を呼ぶ時、等)を行なう。又、ヒヤリハットの検証を毎月行い事故防止に努めている	ヒヤリハット報告書に記録し、ヒヤリハットの検証を毎月行い、一人ひとりの事故防止に向けた対策を話し合っている。急変時の対応手順を透明フィルムに加工したシートにして、事務所の入り口にすぐ使えるように吊るして、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害時には地域の方に非難してもらい事が出来るよう物品や食料の備えの準備を本社と行っている。火災時の対応方法を地域の人に伝えたり火災訓練を消防署の協力で行ったり細かな訓練をワンポイントでミーティングで伝えている	消防署の協力を得て、年2回火災時避難訓練を実施している。地域の防災拠点となるように食料の備蓄を行っている。火災災害予防担当の職員が、ミーティングの中でワンポイントとして、火災予防の具体的なチェック項目や災害時の搬送方法、スプリンクラーの構造などを職員に説明している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を職員には伝えており、目の前の入居者を自分に置き換えてみる事で相手の気持ちがわかる。又ケア向上委員会から毎月不適切なケアになっていないか等の研修を行なっている	事業所の運営方針に基づき、利用者に対しては人生の先輩として、また家族の一員として関わるようにしている。個人情報に鍵のかかる保管庫で管理し、取り扱いに注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが自分の思いを自由に話せる雰囲気作りを心がけており、本人の思いをゆっくり傾聴し 自己決定が出来るよう職員は本人の思いに寄り添い一緒に考えていくよう伝えている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、その日にしたい事を聞きながら支援している。例えば食べたいもの、したい事、行きたい事等全員で話し合っ決めて決めるようにしている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に考えたり、女性は、パーマや髪染め等のオシャレを楽しんでいる。お出かけの時に化粧をしたり口紅を付ける方もいらっしゃる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを考えたりお誕生日は手作りのケーキとお寿司でお祝いし、一緒におやつを作ることも多い。準備や片づけも手伝ってもらう。食事前には入居者に書いてもらったメニューを読んでもらい食べる楽しみを味合う	購入した食材や地域の人からの差し入れの野菜や果物を使って、メニューを利用者と考え、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は職員と一緒に野菜の下ごしらえや片付けをしている。利用者が書いた「おしながき」を利用者が読み上げ、職員も同じテーブルで同じ物を一緒に食べ会話をし、食事が楽しめるように支援している。かぼちゃを練り込んだり、抹茶とゆずの皮を練り込んだお団子づくりやたこ焼きなどのおやつづくりをしている。献立を栄養士に見てもらい、バランスや飲み込みやすい献立などの具体的な指導を受けている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの必要食事を栄養士・看護師と相談した。水分量はその都度記録し水分不足にならないよう注意し、入浴前後や夏季は、手作りの補水液を飲んでもらい特に気を付けている。入居者に応じてきざみ、トロミ、ミキサーにしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、寝る前の他、毎食後はうがい歯磨きをしてもらっている。口腔状態に気を付け必要に応じて歯科受診、治療をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している食事や水分補給に気をつけ排便コントロールを行い、排尿もその人にあった声かけ、時間に気をつけている。	排泄記録を活用して、排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で便秘予防をと考え水分量やオリゴ糖、オリーブオイルの使用や野菜の摂取、ヨーグルト等の乳製品。又ラジオ体操などの運動も毎日行っている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望で夕方や寝る前の入浴を行なう事がある。入浴は毎日希望する人もあれば2日～3日に1回の入浴もある。無理強いせずゆっくり本人のペースで入ってもらっている。	入浴時間は朝食後から14時くらいまでの間で、利用者の希望にそって支援している。入浴のチェックシートをもとに利用者の体調に合わせて、2～3日に1回を目安にしているが、希望があれば毎日入浴できる。声かけを工夫して入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態に合わせて居室で休息の時間をとっている。眠れない夜は温かい飲み物を飲んでもらったりゆっくり話を聞くようにしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロア会議の時に情報の共有をしている。往診後には必ず一人ひとりの病状や変更になった薬やその副作用等看護師から説明があり、職員全員が周知している。又、病状によってはその都度説明する事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を知り役割をお願いしたり知識を披露してもらったりして生活の中にハリと楽しみが持てるよう支援している	朝の集まりの時間に利用者が「美人の日本語」という本から言葉を選んで筆ペンで書き、意味を説明して壁に貼ることを日課としている他、都道府県カルタ、ことわざカルタ、絵合わせ札、すごろくなど利用者と一緒に手作りのゲームを楽しんだり、歌本を一曲ずつの挿絵に利用者が色塗りをして作成したり、ランチョンマットやコースターも手作りしている。干し柿作り、リズム体操、新聞紙体操、風船バレー、ペットボトルボーリング、魚釣りゲーム、月2回の音楽の日、事業所内の運動会、ボランティア(藤岡一座)の来訪など、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、利用者が生き生きと張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に出かけられる方は職員と一緒に行くようにしている。普段外出したくない人も季節のドライブや家族会のミニ旅行は、入居者の楽しみの一つになっている	買物や散歩、自宅の畑の世話、季節の花見(桜やバラ、菖蒲、紅葉)、ドライブや外食に出かけている他、サロンバスを利用して家族会のミニ旅行でいちご狩りやミカン狩りに出かけているなど、希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昨年の家族会は一人ひとりお金を持って支払いをしてもらった。近所のスーパーで買い物を楽しみにしている方もいる。夏祭りではコインを作ってイベント時に使ってもらった		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自分で電話をかけておられる。家族に話したい時は事務所の電話を使ってもらっている。暑中お見舞いを家族に書いてもらったり入院中の入居者に手紙を書いて持って行くこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には職員が季節の花を生けてくれている。裏庭の花を入居者が摘んで生けてくれたり季節のカレンダーや壁飾りを皆で作っている。静かに絵を書いたり食事をしている時には音楽をかけるようにしている	リビングは明るく、温度や湿度に配慮し、テレビや大型のソファがあり、利用者は食後にひざ掛けをかけて過ごしている。壁には、花紙を丸めて作った錦帯橋の飾りや月ごとの利用者の様子の写真を飾ったり、小学生が持ってきた手づくりのなぞなぞが解答を隠す形で掲示してある。窓には折り紙を切って作った雪の結晶飾りや色紙で作ったポインセチア、職員手づくりのサンタクロースのタペストリーやパンで作ったリースに利用者がリボンやぬり絵で飾った季節の飾りつけをしている。ウッドデッキに椅子やテーブルがあり、自由に出ることができ、畑で野菜を作ったり、花をめでることができるなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は自分で好きな場所に行き気のあった人と話をしたり、庭を眺めて一人ゆっくりしている人もいる。入居者の思いを察知し職員が傍にいたり一緒に作業に誘う事もある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた物を持って来てもらったり観葉植物を育ててくれる人もいる。仏壇を持って来て亡くなったご主人に思いをはせる人、好きなテレビをみる人もいる	ダンス、机、椅子、鏡台、テレビ、仏壇、家族写真、時計、ぬいぐるみ、踊りをしていたときの扇、観葉植物など思い出の物や生活用品などを持ち込み、猫が好きな利用者の居室にはかわいい猫の写真(ポスター)を壁のあちこちに貼っているなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事は自分の茶碗や湯呑を使ってもらっている。カレンダーに印をつけたり今日の言葉や食事メニューを書いたり日記を皆で書いて今までにあった事を懐かしんだりこれからある行事予定をみながら会話を楽しんでいる		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム装束門・みどりの家

作成日：平成 26年 7月 2日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	災害対策について施設の火災を想定した避難・消火訓練を地域との協力体制のもとで連携を取り、行うことが数年来の課題であった。先日6/26に、地域の自治会長さん3名と、民生委員1名の参加を頂き、消防訓練を行う事が出来た。1ユニットでの火災を想定し、出火から入居者様の避難誘導の様子を見て頂き、水消火器で訓練も参加して下さいました。次回秋の別ユニットでの訓練も「協力します」と言って頂いた。	地域との災害時における協力体制をさらに強化し、連携を深めていく。災害時の避難先の確保も協力頂く。	今後も地域住民との交流の場を設け(バザー、夏祭り、地域行事など)、顔なじみで気安い関係を構築し、施設の災害対策と一緒に参加して頂く。秋の消防訓練にも自治会長さんや地域の方に参加して頂く。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。